

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域や保護者から信頼される学校をめざす。
- 地域や生徒の実情を踏まえ総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 - 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識と自律心を身に付けた生徒を育てる。
 - 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

- 学力（基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力）の確実な定着に向けて
 - 生徒一人ひとりの学力を把握し、総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を通じ、学力「基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」の定着を図る。
 - 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
 - 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活動全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
 - 新学習指導要領の確実な実施と新観点別評価にともない教員間の意思疎通と生徒の実態に即した授業力の向上および教員の相互評価を図る。
 - 生き生きとした活力ある学校組織と魅力ある授業をめざして
 - 教員としての全般的な力量を高めるため、また活力ある学校組織の推進のため、本校伝統の協働の姿勢を重視した学校運営を行うとともに効果的な職員研修を実施し、あわせて教員の働き方改革についても推進する。
 - 魅力ある授業を実現するため、1人1台端末の活用促進に向けたアクションプランを周知し、ICT機器の活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の取組みについて新規の学校ICT委員会を中心に推進する。

※ 研究授業や授業研究期間等の様々な取組みを通して令和6年度には、生徒の授業満足度85%以上(R1 90%、R2 93%、R3 80%)を定着させる。
- 「豊かな心」と規範意識を身に付けた生徒を育てる
 - 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
 - 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
 - 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、質の高い生徒の集団づくり行う。

※ 生徒・保護者の学校満足度令和6年度90%以上(R1 98%、R2 99%、R3 94%)を維持する。

 - 規律・規範のある学校環境をつくり、社会ルールを順守する姿勢を育成するための生活指導をすすめ、生徒の自律心をはぐくむ。
 - キャリア教育、人権教育の推進
 - 入学時から3カ年を見通した進路指導計画に基づき、ハローワーク等と連携し、卒業時の進路決定率100%をめざす。
 - 「社会の一員としての自立」をめざし生徒のキャリア教育、就職試験対策等の研修や取組みを充実させる。
 - 人権教育推進計画を策定し、互いを認め合える人権教育の実施と差別や偏見を許さない態度を育てる。
- 生徒支援を軸にした学校づくり
 - 生徒支援
 - 生徒支援委員会を中心に担任や各分掌との連携をはかり、組織的・計画的に個々の生徒に応じた支援を実践する。
 - 学級や部活動における担任・顧問による教育相談をはじめ、SCやSSWの積極的な活用を推進し、生徒の「居場所づくり」をすすめ、教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかるとともに、成果を認め長所を伸ばし自尊感情をはぐくむ教育活動を推進する。
 - 教員の生徒との会話力をより高め、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、支援教育や人権教育に関する研修等への取組みを推進する。

※ 令和6年度まで教育相談の生徒肯定率85%以上(R1 94.1%、R2 92.3%、R3 73%)の維持をめざす。

 - 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組む。

※ 令和6年度には中退率15%(R1 2%、R2 5%、R3 3%)以下、新入生の登校率80%以上(R1 86%、R2 86%、R3 79%)を達成する。
 - 安全・安心な学校づくり
 - 定時制の現状に即した防災教育の実践および、生徒の安全に配慮した学校施設の点検や改善を図る。
 - 感染症対策を継続しながら教育活動を実施し、適切に対応できる体制の見直しと整備を実施する。
 - 学校教育活動の情報発信
 - ホームページでの積極的な情報発信と内容の充実し、近隣中学校や保護者に向けての広報活動を推進する。
 - セキュリティポリシーと個人情報管理のルール徹底

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和４年１１月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒回答率64％(74％)、保護者回答率54％(38％)であった。()内は昨年度回答率 １)「成城高校に入ってよかったと思う(学校満足度)」:生徒91. 7 ⅴ (86. 5 ⅴ) 保護者97ⅴ (100ⅴ) と極めて高い。授業に関しては「先生の授業はわかりやすく楽しいと思う(教員の指導の満足度)」:生徒80. 6 ⅴ (75. 7 ⅴ) 「先生は授業や学習面で、よく努力していると思う(教員の指導の満足度)」保護者97ⅴ (94. 7 ⅴ) 「授業の教科科目は工夫されており自分の学びたいものがある(教科・科目、内容の満足度)」:生徒80. 6 ⅴ (80. 6 ⅴ) 「コンピュータ、タブレット(1 人1 台端末) などを使った授業はわかりやすいと思う(ICT機器を活用した授業の満足度)」生徒80. 6 ⅴ (78. 4 ⅴ) と高いものであった。 【分析】生徒人数が56名のため、回答によるアンケート数値への影響は大きい。その中でも授業は1 人1 台端末の導入により、ICTを活用したわかりやすい授業が実践されている。少人数による指導や0 時間め授業などの取組みが成果を上げている。今後も基礎学力の充実と進学や就職に対応した応用力の養成をめざした授業力向上のための取組みを進めていく。 ２)生徒:「学校生活について、学校の指導は納得できる(生徒指導の満足度)」88. 9 ⅴ (81. 1 ⅴ) 「文化祭・体育祭は、楽しく行われている(行事に対する満足度)」91. 7 ⅴ (81. 1 ⅴ) 「学校で、事件・地震や火災がおこった場合、どう行動したら良いか知らされている(防災教育)」86. 1 ⅴ (86. 5 ⅴ) 「学校の人権学習の授業は、よかったと思う(人権教育)」77. 8 ⅴ (75. 0 ⅴ) といずれも高い肯定率であった。 【分析】生徒指導、防災教育、人権教育の方針と指導内容を生徒が理解し、学びに取り組んだ成果が高い肯定率となったと考える。特に教育相談においてはSC及びSSWを有効に活用した効果が大きく活用回数も年々増加している。今後も生徒支援のための教員力の向上と対応できる組織づくりを推進していく。 ３)保護者:「学校の教育方針について、理解している(教育方針の理解度)」100ⅴ (89. 5 ⅴ) 「学校は、さまざまな連絡をよく行ってくれる(学校からの連絡)」83. 3 ⅴ (100ⅴ) 「先生は生徒のことを、よく分かってくれていると思う(教員の生徒理解)」86, 7 ⅴ (94. 7 ⅴ) と保護者の学校に対する肯定率も高かった。 【分析】各学年の担任が家庭との連絡を密にしているが、連絡方法の工夫や手段を再考する余地はあると思われる。保護者と学校が連絡を密にし、連携しながら生徒支援を行うことによりお互いの信頼関係は構築される。今後はより効果的、効率的な保護者への連絡方法を模索しながら保護者との連携を大切にしていきたい。	第1 回: 6 月 24 日 ・協議① 令和4 年度学校経営計画について →全会一致で承認。 【委員より】 ・新規項目が非常に多いことから、学校をよりよくしようという気概を感じ、素晴らしいと思う。 ・観点別評価や ICT 活用等についての教員研修の充実は重要。目標達成に向けぜひ取り組んでほしい。 ・1 人1 台端末活用の先進的な取り組みについて、ぜひホームページでも発信していただきたい。 ・生徒指導に関するスタンダード作成にあたって、時代の変化に合わせて変更すべき部分と、不変の部分とのバランスに留意して取り組んでほしい。 第2 回: 11 月 10 日 ・協議① 令和4 年度学校経営計画の進捗状況について 【委員より】 ・大阪府教育センターで扱われない部分に焦点化した講義や、中学校との連携による校内独自の初任者研修が良い刺激になっていけばと考える。 ・若手教員においても生徒との距離感が非常に適切で、OJT や研修等の効果を感じる。 ・協議② 令和4 年度第1 回授業アンケートについて 【委員より】 ・進学希望者は増加傾向なのか。また、どのように進学指導をしているのか。→進学希望者は増加傾向にある。進学希望者への学習指導は授業前や放課後の時間を使用している。生徒の進路選択と系列・科目選択を踏まえた指導が必要だと考える。 第3 回: 2 月 1 日 協議① 令和4 年度学校経営計画の達成状況について⇒全会一致で承認 【委員より】 ・授業アンケート肯定率の自己評価が△となっているが、定時制の課程では分母となる値が小さいため、少しの数字の変化で肯定率が大きく変わる。生徒の大半は昨年度と同様に肯定感をもっていると考えて良いのではないか。 ・「成城虎の巻」の具体的効果はどのようなものか。 首席:それぞれの教員の人生や趣味など、多岐にわたる内容について先生方が自由に話したことで、教員相互の理解促進に大きく貢献している。 委員:「成城虎の巻」による相互間の理解促進が、ストレスチェックの値にも出ているのではないか。自己評価は△だが、数値は非常によい値だと思う。よい形でチーム感が出ているのではないか。 ・協議② 令和5 年度学校経営計画(案) について⇒全会一致で承認 【委員より】 ・自分も、今年度より勤められている先生向けへの研修を実施させてもらった。他校ではない経験だったため、よい経験となった。また、内容等についても全般的に、先生方が異動された後も生きていく研修だと思う。ぜひ来年度も継続してもらいたい。 ・協議③ 令和4 年度第2 回授業アンケート結果について⇒特に意見なし。 ・協議④ 学校教育自己診断について⇒特に意見なし。 ・協議⑤ スクールポリシーについて⇒全会一致で承認 【委員より】 ・令和の日本型教育に関する文言なども採用されており、よいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 基礎的・基本的な学習の確実な定着	(1) 個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善、進級率の向上 イ 興味関心を持たせる授業	(1) ア 学力診断テストを実施、生徒個々に対する指導と授業の改善をはかる。 イ 基礎的・基本的な知識・教養の習得のため、教材を工夫し学ぶ意欲の向上をはかる。「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」等の授業を推進し、興味関心を高める。	(1) ア・授業アンケート「先生の、授業を進める速さや内容の難しさは、自分にとってちょうどよい」生徒理解肯定率 90%以上〔88%〕 イ・学校教育自己診断「授業の教科科目は工夫されており自分の学びたいものがある」生徒の肯定率 80%以上維持〔80%〕 ・学校教育自己診断「「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の授業内容は自分にとってためになっている」生徒肯定率 75%以上〔73%〕 ウ・新学習指導要領に関する研修年 2 回以上〔新規〕 ・新観点別評価に関する研修年 4 回〔新規〕 (2) ア・校内独自の初任者研修年 6 回以上実施〔5 回〕 ・職員会議後ミニ研修「成城虎の巻」年 8 回以上実施〔6 回〕 イ・ストレスチェック総合健康リスク 84 以下にする〔新規〕 ウ・教員間の相互授業評価を行う授業研究期間の実施 2 回〔2 回〕 ・学校教育自己診断「コンピュータ、タブレット（1 人 1 台端末）などを使った授業はわかりやすいと思う」ICT を活用した授業の生徒肯定率 90%以上〔78%〕 ・学校 ICT 委員会の本格始動、委員会による教員研修年 2 回以上実施〔新規〕 ・オンライン HR の実施年 1 回〔新規〕 ・1 人 1 台端末を活用した授業の展開、教員へ「成城アクションプラン」の提示と授業で端末を利用している教員数が全体の 70%以上〔新規〕	(1) ア・授業アンケート肯定率 86%（△） 今後も授業力向上に努めていく。 イ・学校教育自己診断肯定率 83%（○） 今後も継続の評価指標とする。 ・学校教育自己診断肯定率 80%（◎） 今後も継続の評価指標とする。 ウ・年 2 回実施（○） ・年 4 回実施（○） (2) ア・校内初任研年 15 回実施（◎） ・「成城虎の巻」年 12 回実施（◎） 今後も教員力向上のため継続していく。 イ・ストレスチェック健康リスク 85（△） ウ・年 2 回実施（○）今後も授業力向上のため創意工夫して取り組んでいく。 ・学校教育自己診断肯定率 83%（△） 目標に達していないが昨年度より数値は向上した。 ・年 2 回実施済（○） ・年 1 回実施（○） ・端末を利用している教員は 70%（○）
	ウ 新学習指導要領の実施と新観点別評価 (2) 生徒のやる気を高め、魅力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上 イ 教員の働き方改革 ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業の推進と ICT 機器、1 人 1 台端末の活用	ウ 新学習指導要領および新観点別評価について、教員間の研修および相互理解、それにともない授業力の向上をはかる。 (2) ア 経験年数の少ない教員が増えているため、首席を中心に組織的・継続的な研修を実施するとともに研究授業を実施し、授業力の向上をはかる。 イ ノー会議デーを設定し、時間外勤務時間の減少を図りストレス軽減につなげる。 ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ、1 人 1 台端末をどの授業でも活用し ICT 機器を活用した授業力の向上とアクションプランの周知徹底を図る。	ウ・新学習指導要領に関する研修年 2 回以上〔新規〕 ・新観点別評価に関する研修年 4 回〔新規〕 (2) ア・校内独自の初任者研修年 6 回以上実施〔5 回〕 ・職員会議後ミニ研修「成城虎の巻」年 8 回以上実施〔6 回〕 イ・ストレスチェック総合健康リスク 84 以下にする〔新規〕 ウ・教員間の相互授業評価を行う授業研究期間の実施 2 回〔2 回〕 ・学校教育自己診断「コンピュータ、タブレット（1 人 1 台端末）などを使った授業はわかりやすいと思う」ICT を活用した授業の生徒肯定率 90%以上〔78%〕 ・学校 ICT 委員会の本格始動、委員会による教員研修年 2 回以上実施〔新規〕 ・オンライン HR の実施年 1 回〔新規〕 ・1 人 1 台端末を活用した授業の展開、教員へ「成城アクションプラン」の提示と授業で端末を利用している教員数が全体の 70%以上〔新規〕	ウ・年 2 回実施（○） ・年 4 回実施（○） (2) ア・校内初任研年 15 回実施（◎） ・「成城虎の巻」年 12 回実施（◎） 今後も教員力向上のため継続していく。 イ・ストレスチェック健康リスク 85（△） ウ・年 2 回実施（○）今後も授業力向上のため創意工夫して取り組んでいく。 ・学校教育自己診断肯定率 83%（△） 目標に達していないが昨年度より数値は向上した。 ・年 2 回実施済（○） ・年 1 回実施（○） ・端末を利用している教員は 70%（○）
2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	(1) 規律・規範のある学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実 イ 特別活動の充実 ウ 規律ある生活指導の充実 (2) キャリア教育、人権教育の推進 ア 進路指導体制の構築 イ キャリア教育の取組み ウ 互いを認め合える人権教育	(1) ア 生徒会中心で学校行事を企画し、生徒参加の地域清掃やあいさつ週間を実施する。 イ 豊かな心をはぐくみ、学校生活を充実したものにするため、部活動体験入部などの取組みを実施。 ウ 規律ある生活指導を推進し、生徒の自律心を高める。スマホ指導等に取組むことで、授業規律と学習の雰囲気改善する。 (2) ア 体系的な進路指導計画による、学年毎にキャリア教育 HR 等の実施。就労について生徒の意識向上と勤労観をはぐくむ。 イ 「社会の一員としての自立」をめざし、進路対策、就職試験対策の実施。 ウ 良好な人間関係や集団づくりのため、生徒人権研修と人権 HR の実施。	(1) ア・学校教育自己診断「文化祭・体育祭は、楽しく行われている」生徒肯定率 90%以上〔86. 5 %〕 ・生徒会主導による新企画を年 1 回実施〔新規〕 イ・部活動入部率 70%以上継続〔70%〕 ウ・学校教育自己診断「学校生活について、学校の指導は納得できる」生徒肯定率 85%以上〔81. 1 %〕 ・授業規律について「成城スタンダード」の策定〔新規〕 ・授業集中強化月間の設定年 1 回〔新規〕 (2) ア・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」生徒肯定率 90%とする〔83. 3 %〕 ・進路係主導によるキャリア教育能力向上に関する教員研修の実施、年 2 回〔新規〕 イ・進路決定率 90%以上〔新規〕 ウ・学校教育自己診断「学校の人権学習の授業は、よかったと思う」生徒肯定率 80%以上とする〔75. 0 %〕	(1) ア・学校教育自己診断肯定率 94%（◎） ・年 1 回実施（○）生徒主導で企画立案し実施することができた。 イ・部活動入部率 70%（○） ウ・学校教育自己診断肯定 91%（◎） ・策定（○）今後はより良く活用できるように教員間で共通理解を深めていく。 ・年 1 回実施（○） (2) ア・学校教育自己診断肯定率 91%（○） ・年 2 回実施（○） イ・進路決定率 93%（○） ウ・学校教育自己診断肯定率 80%（○）
	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取組み イ 生徒との会話を高め、信頼と安心の学校づくりに取り組む ウ 不登校及び退学者の減少 (2) 安全安心な学校づくり ア 防災・安全教育 イ 感染症対策の継続 (3) 情報発信 ア ホームページの充実と情報発信 イ 個人情報の適切な管理	(1) ア 生徒支援委員会を中心に本校独自の生徒支援カードや SC・SSW を活用した効果的な教育相談と支援の取組み。 イ 生徒が信頼し安心できる学校づくりと職場におけるハラスメントの防止を推進。 ウ 長期欠席生徒への対応と生徒の相談体制を充実させる。新入生登校率の向上。 (2) ア 「生命を守る」防災・安全 HR の実施。 イ 感染症対策の教員研修を実施し、適切に対応できる体制を整える。 (3) ア ホームページの充実を図り、情報発信を推進。 イ セキュリティポリシーの確認と「個人情報を取り扱う責任」を自覚し、個人情報管理のルール徹底を図る。	(1) ア・学校教育自己診断「学校では、生徒支援のための取り組みを行っている」教員肯定率 90%以上維持〔90%〕 イ・教員向け体罰防止・セクハラ防止研修の実施、年 1 回〔新規〕 ・学校教育自己診断「悩みやいじめ等を相談し親身になって応じてくれる先生がいる」生徒肯定率 80%〔73. 0 %〕 ウ・SNS トラブル、いじめ防止の生徒向け講習会年 2 回実施〔新規〕 ・入学生登校率 80%以上〔79%〕 (2) ア・学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災がおこった場合、どう行動したら良いか知らされている」生徒肯定率 90%以上〔86. 5 %〕 イ・保健係による薬物乱用防止、感染症予防、食育指導等の生徒向け講習会実施年 1 回〔新規〕 ・感染症対策の対応に係る職員研修の実施、年 1 回〔新規〕 (3) ア・学校 HP の定期的な更新毎月 1 回以上〔新規〕 イ・個人情報管理に関する職員研修の実施、年 1 回〔新規〕	(1) ア・学校教育自己診断肯定率 90%（○） 今後も継続の評価指標とする。 イ・年 1 回実施（○） ・学校教育自己診断肯定率 81%（◎） 今後も継続の評価指標とする。 ウ・年 2 回実施（○） ・入学生登校率 80. 6 %（○） (2) ア・学校教育自己診断肯定率 89%（○） 目標には届いていないが数値は昨年度よりあがり生徒たちへの理解が深まったと思われるため達成とした。 イ・年 1 回実施（○） ・年 1 回実施（○） (3) ア・月 1 回以上更新を継続（◎） 計 50 回以上の更新ができたため。 イ・年 2 回実施（◎）